

防風対策

防暑対策

浮棧橋・簡易浮棧橋



WIND PROOF

防風対策施設設計

係留漁船に対する荒天時強風の障害は、波浪の作用にともない、漁船の横転や沈没、漁船と係留施設及び漁船どうしの接触や衝突による損傷、係留ロープやアンカーロープ及び漁船係留装置の破断や損傷、風で輸送された越波の漁船への打込み、係留作業時の転倒や転落等が考えられます。

陸揚げなど漁労に対する風の障害は、接岸時や航路の航行の際の操船障害、陸揚げや船揚げ時の作業障害及び危険性の増大等が考えられます。

防風を目的として、防風柵を整備する事で港内泊地の静穏度が向上し、漁船の延命化、操船の安全性向上、係留・荷揚げ・船揚げ作業の安全性及び効率化の向上が期待できます。

また、寒冷時は、エプロンの凍結による転倒の回避、体感温度低下による漁労効率の低下抑制も期待できます。

水産庁の新たな漁港漁場整備長期計画

重点課題として、「漁港ストックの最大限の活用と漁村のにぎわいの創出」の一環で、女性・高齢者などにとって住みやすく働きやすい漁村づくりを推進しており、その一部に、**防風施設の整備**による就労環境改善対策を推進する事を実施の目標として掲げています。

業務実績(防風柵の設計)

- ・ 印通寺港社会資本整備工事（設計委託その1）
- ・ 水崎地区漁港施設機能強化工事（設計業務委託）
- ・ 比田勝港自然災害防止工事（設計業務委託）
- ・ 大熊漁港漁村再生交付金設計委託 他

設計上の留意点

背後地の用途及び利用状況等を考慮して、防風しようとする範囲の障害が軽減されるよう、適切に配置するとともに、計画風速と許容風速を設定する必要があります。また、既設構造物に設置することが多く、既設構造物の安定性を検討して、安定性が確保できない場合は、既設の補強が必要となります。

